

J-WIP 第 21 回 活動報告

2023 年 4 月 24 日、ワシントンDCで働く女性を応援する J-WIP による第 21 回目の対面式スピーカーイベントを開催致しました。講師として、米日カOUNシルの共同議長、アーノルド&ポーター法律事務所の元首席弁護士として活躍されてきたスーザン森田氏をお迎えし、26 人の参加者を前に”Japanese American Perspective” Her Journey as an Asian American Women in the U.S をテーマに、100 分を超えるお話と QA セッションにご対応いただきました。様々な角度から日系米国人および日本人の強制収容の事実、厳しい差別を受けながらも、米国社会で受け入れられるための苦難の道、女性活躍の課題、スーザン氏の新たな学びの内容でもある人種別に見た米国受刑者の現状等、日系三世としてのスーザン氏の激動の人生に基づく内容であり、参加者それぞれの人生とも重ね合わせ、深く学ぶ機会となりました。



スーザン氏

スーザン氏のご家族が米国に渡ってきた経緯、第二次世界大戦前後の日系米国人にまつわる歴史を大変興味深く聴かせていただきました。日系一世にあたる日蓮宗の僧侶のご祖父様、生け花の先生のご祖母様が、名古屋からシカゴへと新天地で日本コミュニティを築かれた様子を物静かに力強く語られました。セピア色の家族写真に混じり、着物姿の少女であったスーザン氏の姿があり、このように日本人は米国に入植し、新しい人生を切り拓いてこられたのだと、参加者の中に自分たちのルーツを感じ取った方も多かったのではないのでしょうか。



モデレーターを務められた小林ちよさんと

1942 年に当時のルーズベルト大統領が「大統領令 9066 号」を発令し、米国西部に住む日系米国人・日本人 12 万人が一瞬にして家や土地などの全財産を失い、わずか 48 時間で全米各地の強制収容所 10 か所に移送された事実。本国と戦う為、「442 部隊」に送られた日系二世。戦後しばらくは日本人でもなく米国人でもない日系米国人に対する差別が消えることがなかったといえます。日本人を表す言葉、Culture of Silence と Culture of Shame. 日米両国に複雑な思いを抱きつつ、

折り紙で「鶴」を折ることで心をつにし、日系米国人が連帯しながら米国社会で受け入れられる地位を得たストーリーは参加者の誰もが感動を覚えた内容です。

米国でも働く女性の地位向上はまだまだ途上。女性活躍を阻むと言われる無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を打開していくためには、時間とエネルギーは必要であるが、女性一人ひとりが声を上げて行動することも大事だと丁寧にご説明いただきました。また、職場・社会の質を向上させるためには、多様性を育むことが大切であり、平等性(equality)ではなく、人それぞれの状況に応じた公平性(equity)を追求することが必要である、ということも学びました。

スーザン氏のお人柄にもすっかり魅了され、日系米国・日本人の絆を強くしていくこと、次の世代に歴史を伝えていくのは私たちの役割ということも参加者が一致した認識です。

ワシントンDCで働く女性として、今回のように日系米国人の歴史を学ぶ機会も大切にしながら、J-WIP活動をさらに発展させていきたいと思えます。

※J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC)

ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月より、ワシントン日本商工会として支援。



スーザン氏(中央)を囲む集合写真